

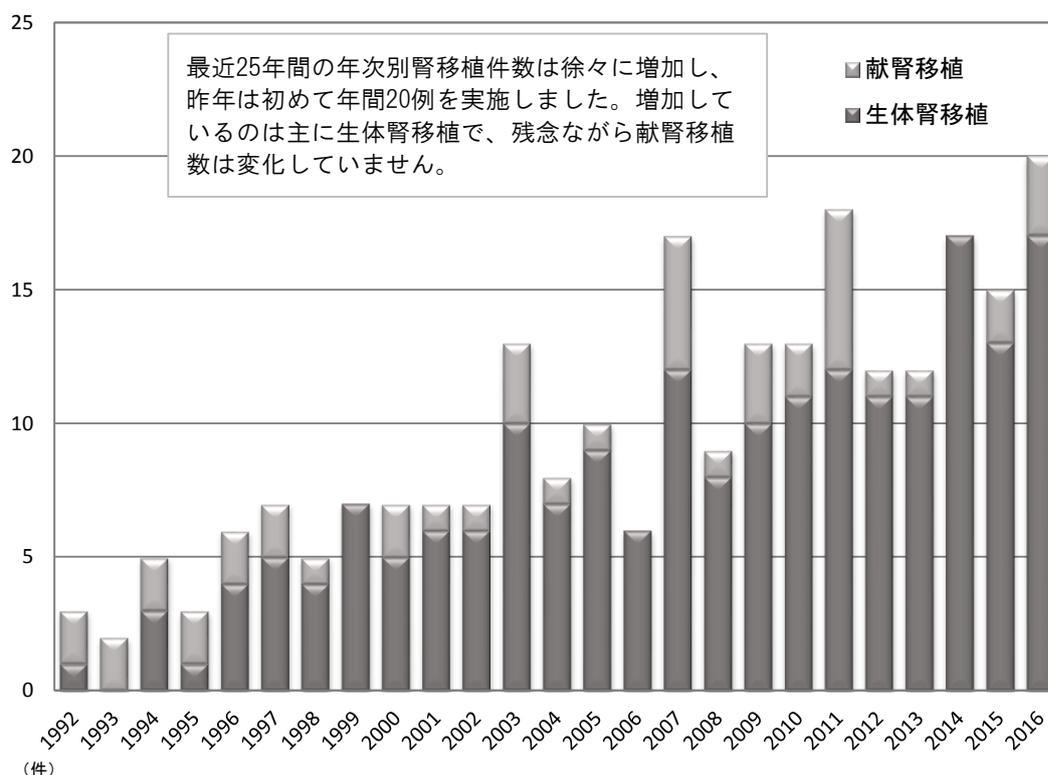
31 腎移植センター



兵庫医科大学病院における腎不全患者の治療は腎移植を腎移植センターが、透析治療を血液浄化センターが担当している。腎移植は現在のところ腎不全に対する唯一の根本的治療法であり、当院では1983年（昭和58年）8月の第1例目以後、現在までに345例の腎移植を実施している。腎移植後の成績は5年生着率96%、10年生着率85%と良好で20年以上の長期生着患者も35名と増加している。腎移植センターには移植外科医12名（日本移植学会・日本臨床腎移植学会の腎移植認定医4名を含む）、腎臓内科医8名（腎移植認定医1名を含む）、小児科医2名、レシピエントコーディネーター2名が所属し、外来での腎移植相談および移植準備、移植手術、移植後の通院治療を行っている。また、腎移植治療を推進するため西宮、神戸、姫路等において市民公開講座などの啓蒙活動も積極的に行っている。腎移植治療の特徴として臓器移植という特殊性を持った医療である事、治療結果がすぐさま生命予後に影響する事、免疫抑制の影響で易感染性が高い事、移植成績の向上により長期生着患者が増加し20年以上診療を続ける患者が多い事、などが挙げられる。これらの特性をふまえ、最良の治療成績をあげるため当腎移植センターでは地道で丁寧な診療を心がけ、センターに所属する医療スタッフのチームワークはもちろんの事、兵庫医科大学病院の各診療部との緊密な連携を保って診療にあたっている。

また、日本全体の動向を見ると1997年（平成9年）に臓器移植法の施行、2010年（平成22年）に改正法の施行と日本なりの法整備がなされた。年間50～60件の脳死下臓器提供がなされている現状は1990年代と比較するとまさに隔世の感があるが、まだまだ十分とは言えず心臓、肺、肝臓、膵臓の移植を待っている患者さんがそれぞれ200～400人待機している状態である。それでも、今後提供が増加すればこれらの移植については提供臓器が充足してくるという予測もされている。ところが、腎移植に関しては状況が大きく異なっている。2016年4月時点で12,872名の患者さんが献腎移植を待機している状態であるが、2012年（平成24年）以降腎臓の提供が減少しており、15年以上と言われている待機年数がさらに延長している厳しい現実がある。その背景には心停止後腎提供時の激減があり、脳死下臓器提供と心停止後腎提供の両方が重要であることを再度社会に周知啓発する事が緊急の課題と考えられている。

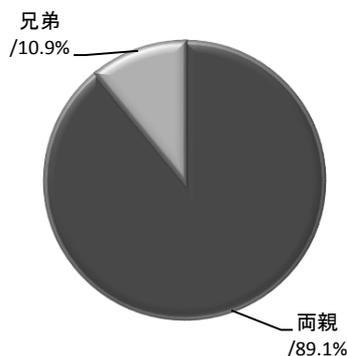
31-1 兵庫医科大学病院の年次別移植件数



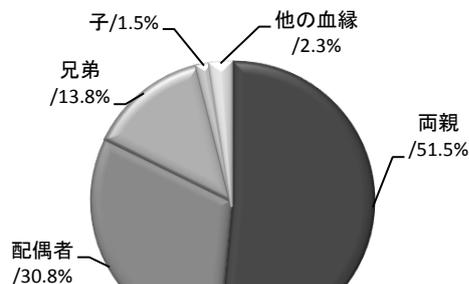
31-2 生体腎移植ドナーの変化

2000年（平成12年）以後夫婦間移植が増加し、生体腎移植ドナーの1/4以上が配偶者になっています。

1983年-1999年



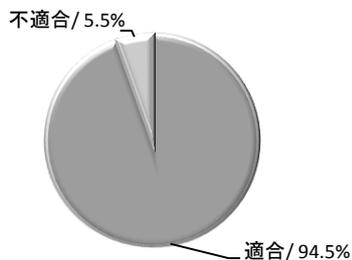
2000年-2016年



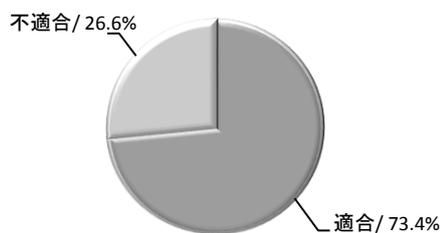
31-3 血液型不適合腎移植の増加

血液型不適合腎移植は1995年（平成7年）に初めて実施し、2000年（平成12年）以後件数が増加。現在では4人に1人が血液型不適合移植をうけています。

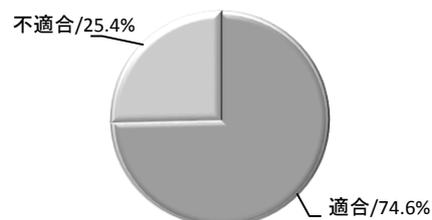
1983-1999年



2000-2009年



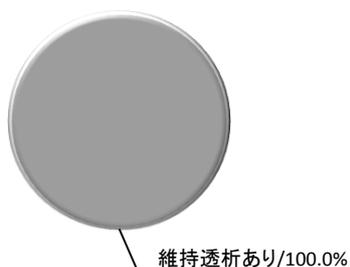
2010-2016年



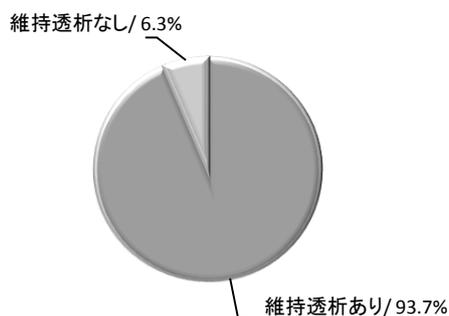
31-4 兵庫医科大学病院における先行的腎移植の割合

移植前に長期透析を行わない「先行的腎移植」のほうが合併症リスクが減少することから、生体腎移植では維持透析をせずに腎移植を選択する患者さんが増加しています。

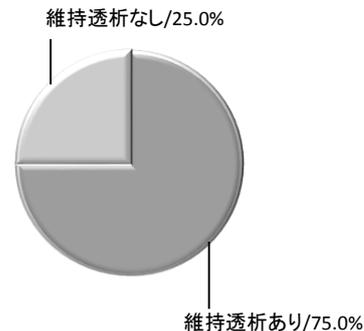
1983-1999年



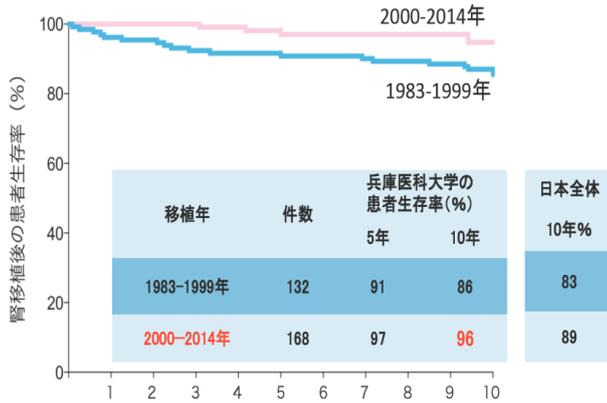
2000-2009年



2010-2016年

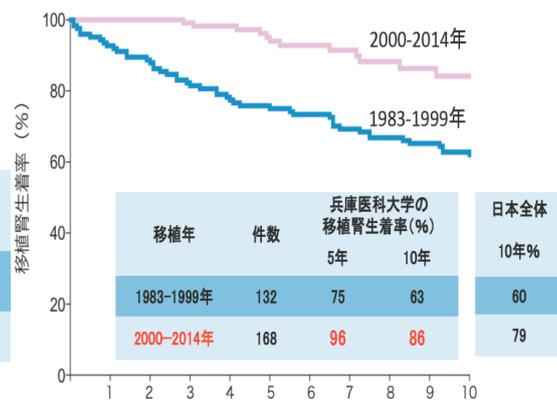


31-5 腎移植後の患者生存率



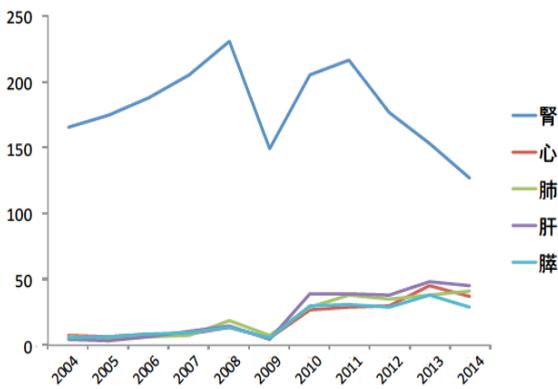
① 腎移植後の患者生存率は10年で96%と良好です。
 ② 初期（1983年-1999年）の成績でも10年で86%であり、腎移植で生命予後が改善しています。
 ③ 死亡例は初期に重症感染症が多く、最近では心血管疾患・悪性腫瘍が多くなっています。

31-6 腎移植後の移植腎生着率



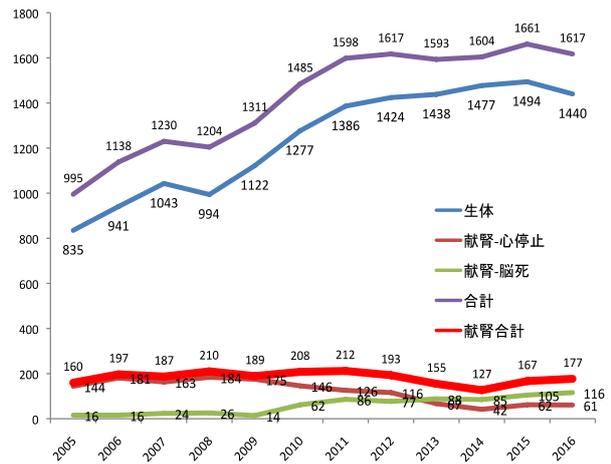
① 腎移植後の移植生着率は5年で94%、10年で84%と良好です。
 ② 免疫抑制療法の進歩にともない、初期（1983年-1999年）の成績よりも10年生着率は20%向上しています。

31-7 日本の臓器移植件数の推移（生体移植を除く）



2010年の臓器移植法改正以後、脳死下臓器提供が増加し腎臓以外の移植が増加していますが、腎臓移植件数が減少しています。

31-8 日本の腎移植件数の推移



生体腎移植が約90%、献腎移植は全体の1割に過ぎない状態が続いています。献腎移植の内訳では心停止後の腎提供が減少したため、脳死下の提供が増加しているにもかかわらず献腎移植の総数が減少しています。